

## ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-15-3/3)

### 目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。また、時代幅については、6～8世紀を基軸におき、紀元前後から13世紀の壁画を主な対象とする。

### 成 果

#### 1. 敦煌莫高窟壁画調査研究

- ア) 莫高窟第285窟において調査を行い、昨年度に引き続き、洞窟内で発生する風（空気流）によって飛ぶ微小な砂の挙動と壁画の劣化との関係についてデータを取得し、考察を行った（2015（平成27）年8月）。
- イ) 環境研究に関する成果を日本建築学会（2件）、国際学会（1件）、材質分析研究に関する成果を日本文化財科学会、保存修復学会（各1件）、保存に関する成果を国際学会（1件）、データベースに関する成果を国際学会（1件）で発表した。
- ウ) 敦煌研究院保護研究所の研究員1名を招聘し、文化財の生物劣化とその対策に関する講義と関西地区の文化遺産等についての視察を通して研修を行った（2015（平成27）年11月10日～28日）。
- エ) 5カ年計画の最終年にあたり、平成17年度に始まり10年に及んだ莫高窟第285窟の調査研究を総括するため、これまでの成果を日中2カ国語の報告書としてまとめ、併せて敦煌研究院において総括の成果会を報告開催した（2016（平成28）年3月12日）。

#### 2. 陝西墳墓壁画調査

陝西省考古研究院と連携し、現存例は少ないものの、技法・絵画表現において大きな変革期となる隋・初唐の墳墓壁画について調査を行い、第285窟の次の研究課題について考察した（2015（平成27）年10月21日）。

#### 3. フルブック遺跡出土壁画断片保存修復事業のまとめ

タジキスタン共和国フルブック遺跡から出土した壁画断片の保存修復・展示・一般公開という一連の保存修復事業を日本語報告書としてまとめ、その成果を公表した。

### 論文

- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」『保存科学』55 pp.139-149 163

### 発表

- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響」平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会 大阪工業技術専門学校 15.6.27
- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- ・中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究」日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係」日本建築学会大会（関東）学術講演会 東海大学 15.9.6

- Mikayama Akane, Hokoi Shuichi, Ogura Daisuke, Okada Ken, Su Bomin, Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang. 6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, Turin, Italy, 15.6.15
- 岡田健、津村宏臣「知識科学としての敦煌データベース」2015 Dunhuang Forum: International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment 敦煌 15.8.25
- 岡田健「石窟壁画研究ノート—失われた壁画の記憶」第2回曲江壁画論壇—壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として— 西安 15.10.23
- 小川絢子、藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子、山内和也「タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復—壁画断片群のマウント処置と展示—」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

#### 刊行物

- 『敦煌莫高窟第285窟研究—壁画材料劣化メカニズムの解明』東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『敦煌莫高窟第285窟壁画材料劣化機理、壁画藝術と保護問題的研究』（中国語版）東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 16.2

#### 研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、山藤正敏（文化遺産国際協力センター）、高林弘実、渡辺真樹子、津村宏臣、藤澤明（以上、客員研究員）

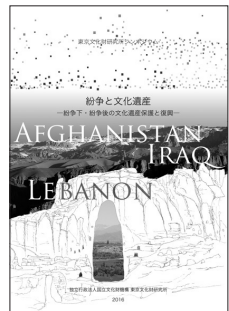
『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡-2011～2014年度-』（②セ03の一環として実施）

本書は平成23年度から26年度にかけて、キルギス、アク・ベシム遺跡及びケン・ブルン遺跡において文化遺産国際協力活動の一環として実施した調査研究事業の報告書である。アク・ベシム遺跡の発掘調査で出土したイスラーム時代の遺構や遺物、動植物遺存体、放射性炭素年代結果等についての報告及びケン・ブルン遺跡の測量と表面採集遺物の分析結果を掲載した。補遺には漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡の歴史学的考察も収録した。日本語、2016年3月刊行、108ページ。



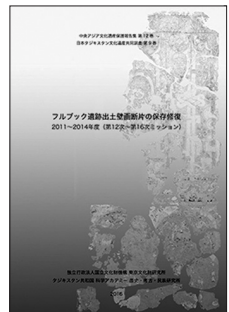
『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』（②セ03の一環として実施）

2016（平成28）年1月24日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」に関する報告書である。4名の講演者による4本の講演と、パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」を録音音声から起こし、整理・日本語訳したものを収録している。日本語、2016年3月刊行、91ページ。



『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（②セ06の一環として実施）

本書は、2008（平成20）年より2014（平成26）年までタジキスタン国立古代博物館において実施した、フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業の最終報告書である。フルブック遺跡は同国南部に位置する9～11世紀半ばに利用された都城址であり、1983年には、本来壁面幅1m×高さ2mに描かれた壁画の一部であった10～11世紀の製作と思しき壁画断片が発見された。この壁画断片を対象として実施された調査及び保存修復処置、そして博物館での展示に至るまでの一連の保存修復事業の成果を報告した。日本語、2016年2月刊行、159ページ。



在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas（②セ04の一環として実施）

